

南方遺跡の石器

西田 和浩

【講座の概要】

1. はじめに

石器は旧石器時代以来、弥生時代まで生活に欠かせない道具として使われました。弥生時代になると水稲農耕とともに大陸から磨製石器がもたらされ、石器の種類は縄文時代よりも多様で、様々なものが作られました。岡山市南部の弥生時代、どのような石器が使われたのでしょうか。

2. 石器の種類と機能

弥生時代の石器は用途別に多様に分類されます。その特徴は、①水稲耕作とともに大陸から伝来したもの（大陸系磨製石器）があること、②武器が出現したこと、③地域色が明確なこと、という点にあります。①は磨製石庖丁のほか、木製農具製作のため様々な用途の磨製石斧が出現した。②は石剣・大型の石鏃等に代表され、磨製のものは大陸から伝播したもの、あるいはその影響で製作されたものと推定されます。③は採取できる石材や農耕や金属器の普及の差など地域の実情を反映したものと考えられます。

3. 吉備の弥生石器の特徴

特定の石材に偏って石器作りがなされる点に特徴があります。吉備では、旧石器時代から打製石器の製作には香川産のサヌカイトが利用されました。特に、打製石剣と打製石庖丁に利用されます。この他、大型蛤刃石斧には「石英安山岩」といわれる特定の石材が利用されます。岡山市南方遺跡はこれまでの発掘調査から、吉備を代表する巨大弥生集落とみられます。ここでは、大型蛤刃石斧の製作失敗品や製作途中の半製品が多数出土した。近隣の遺跡ではあまりみられない現象であり、この南方遺跡で大型蛤刃石斧の製作工程が復元できます。

4. おわりに —石器研究の役割—

石器は他の遺物のように、腐ったり錆びたりしないため、発掘すれば小さな物まで残される。そのことから、生活必需品である石器の種類を調べることで当時の人がどのような生業を中心に営んでいたのか推測するのに有効です。また、石材の産地が判明しているものについては流通範囲から当時の地域間の交流について考えることができます。石器の研究は弥生時代の社会を知るうえで欠かせない分野といえるでしょう。

【参考文献】

- 平井 勝 1991 『弥生時代の石器』(考古学ライブラリー 64) ニュー・サイエンス社
高田浩司 2001 「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第23集
寺前直人 2011 「三 石器の生産と流通」『講座日本の考古学5 弥生時代(上)』青木書店

西暦	時代	できごと
前400	縄文	早期 北部九州で水稲農耕はじまり、大陸系磨製石器が使用され始める。
前300		前期 各地に水稲農耕が広まる。環濠集落が作られる。金属器(青銅器・鉄器)が北部九州に流入する。
前200	弥生	中期 青銅器の製作が始まり、各地に普及する。倭、百余国に分かれる。(『漢書』地理誌)
前100		後期 鉄器が普及し、石器が衰退する。57年。奴国王、後漢から金印を授かる。(『後漢書』東夷伝) 180年。倭国乱れる。(『三国志』魏志倭人伝)
後100		古墳 239年。卑弥呼が魏に使いを送る。(『三国志』魏志倭人伝)
後200		
後300		

狩猟具	だせいせきぞく 打製石鏃	調理具	たたきいし 敲石				
	ませいせきぞく 磨製石鏃		すりいし 磨石				
武器	だせいせきぞく 打製石鏃	工具（伐採・加工具）	ふとがたはまぐりばせきふ 大型蛤刃石斧	樹木の伐採用両刃石斧、縦斧			
	ませいせきぞく 磨製石鏃				ちゆうじょうかたば 柱状片刃石斧	木製品の加工用片刃石斧、横斧	
	だせいせつけん 打製石剣						へんぺいのかたば 扁平片刃石斧
	ませいせつけん 磨製石剣						
漁労具	せきすい 石錘	いしきり 打製石錘	磨製石錘	じんき スクレイパー（刃器）			
	農具（収穫具）	だせいいしぼうちよう 打製石庖丁	敲石		砥石		
ませいいしぼうちよう 磨製石庖丁							

図1 岡山県内でみられる主な弥生石器の分類

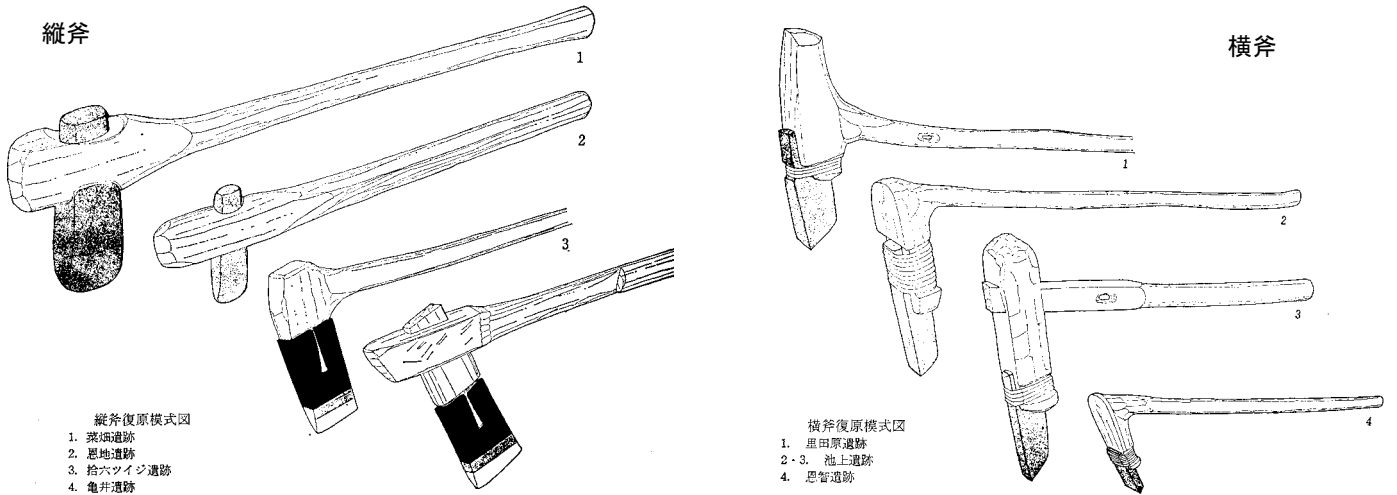


図2 石斧の着柄例

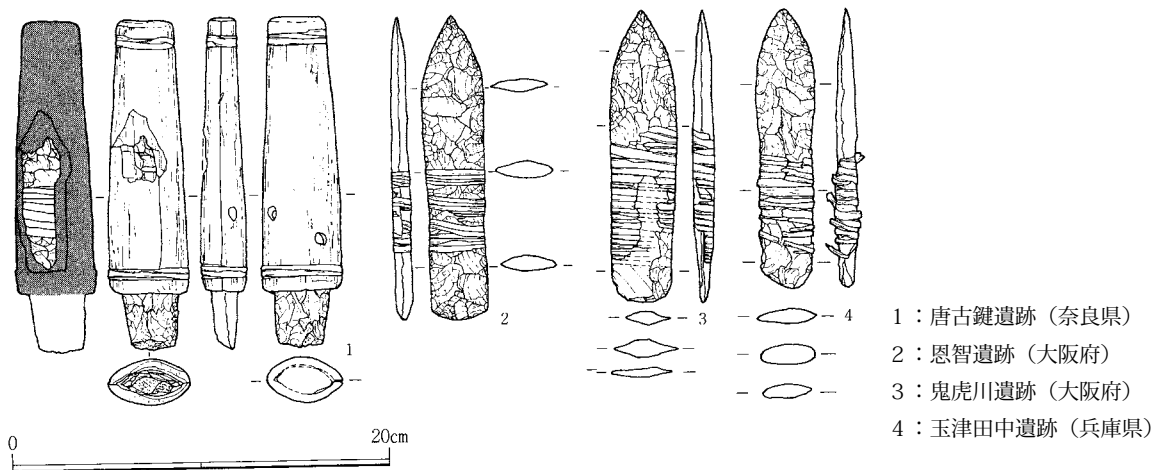
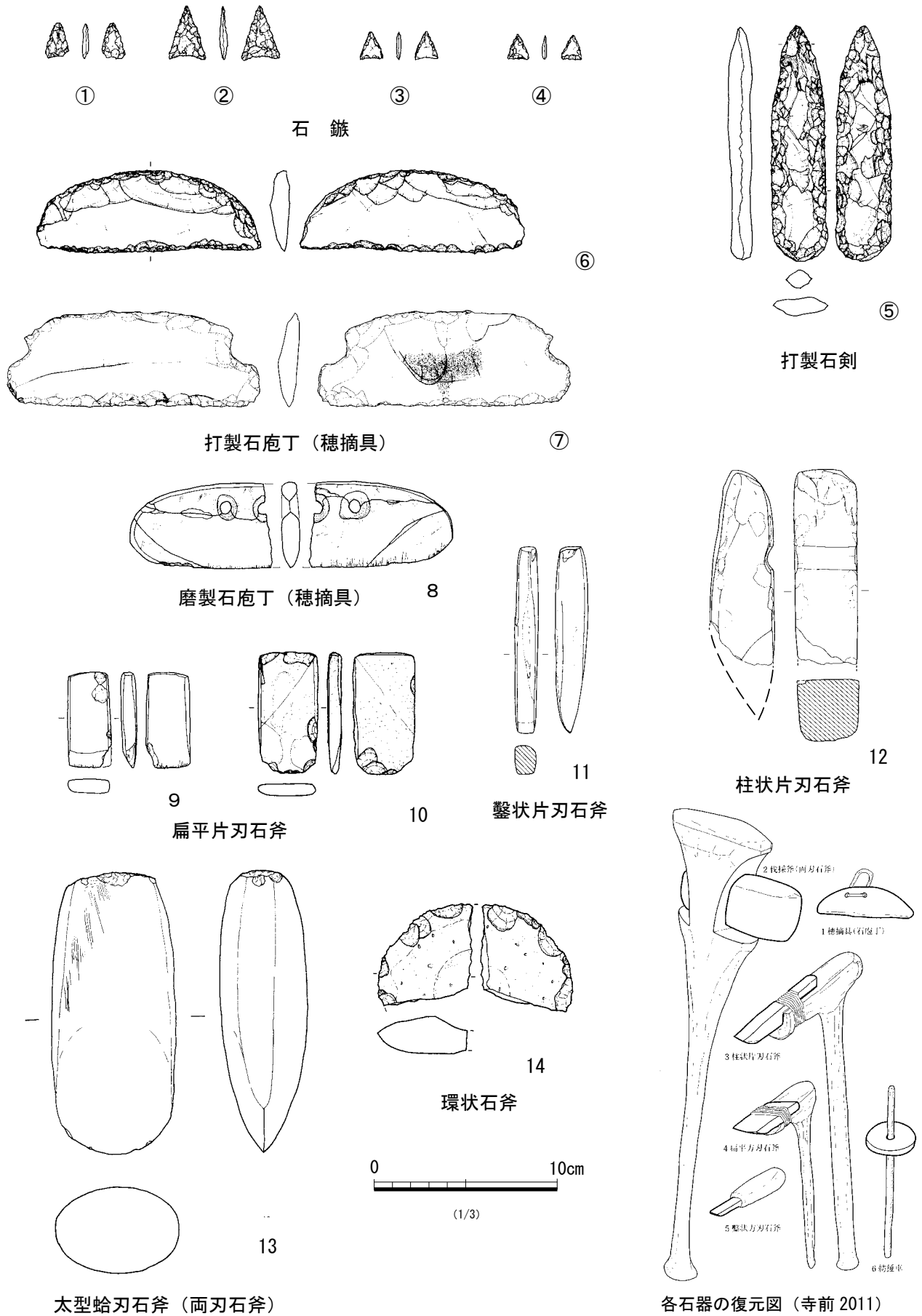


図3 鞘に入った打製石剣と柄を樹皮で巻いた打製石剣



①～④・⑥・⑧～⑩・⑬：南方（後楽館）遺跡 ⑤・⑭：赤田東遺跡 ⑦：上伊福（済生会）遺跡
 ⑪・⑫：田益田中遺跡 *①～⑦はサヌカイト製

図4 弥生石器の種類と形（岡山市内出土）

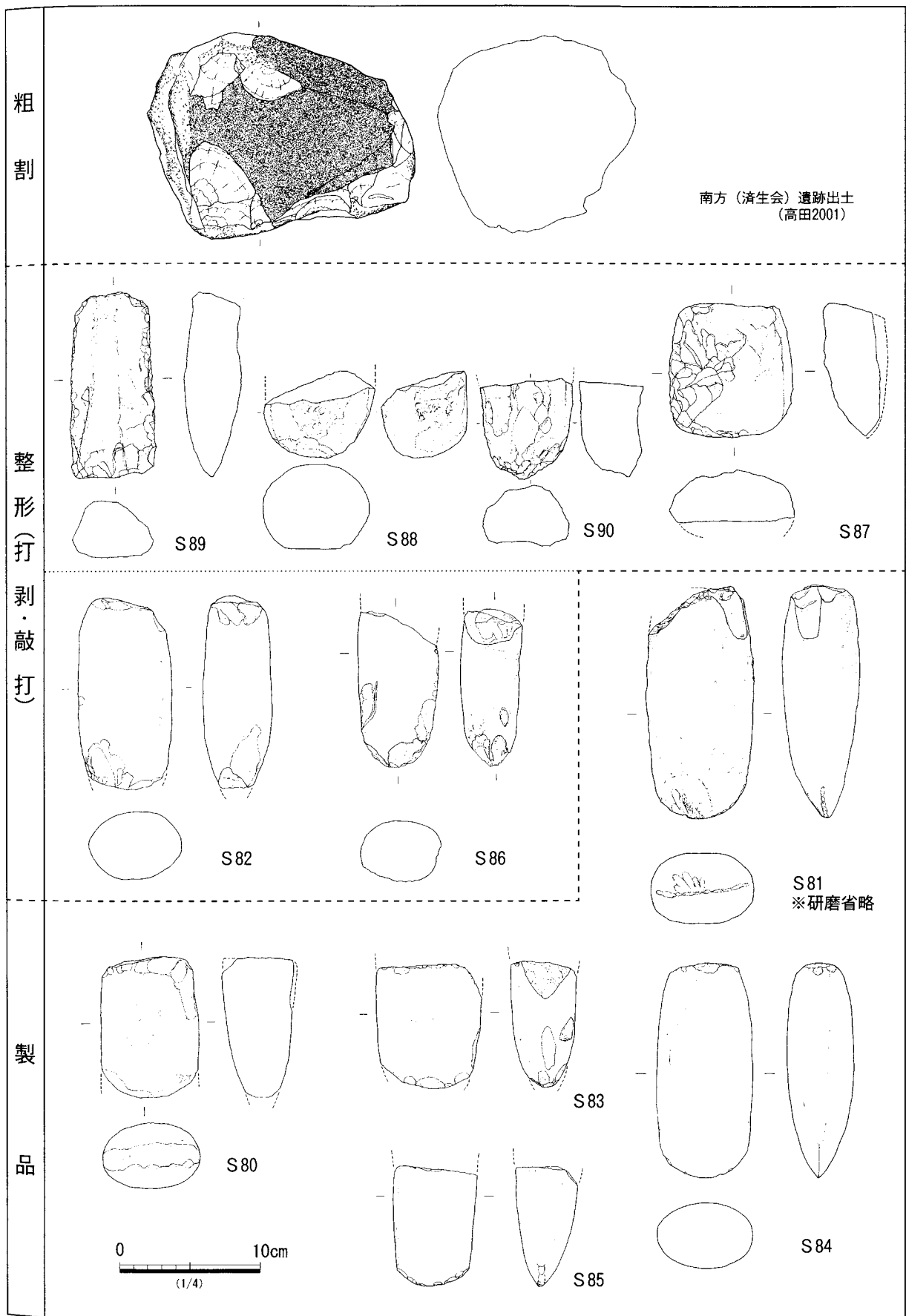


図5 南方（後楽館）の太型蛤刃石斧製作工程

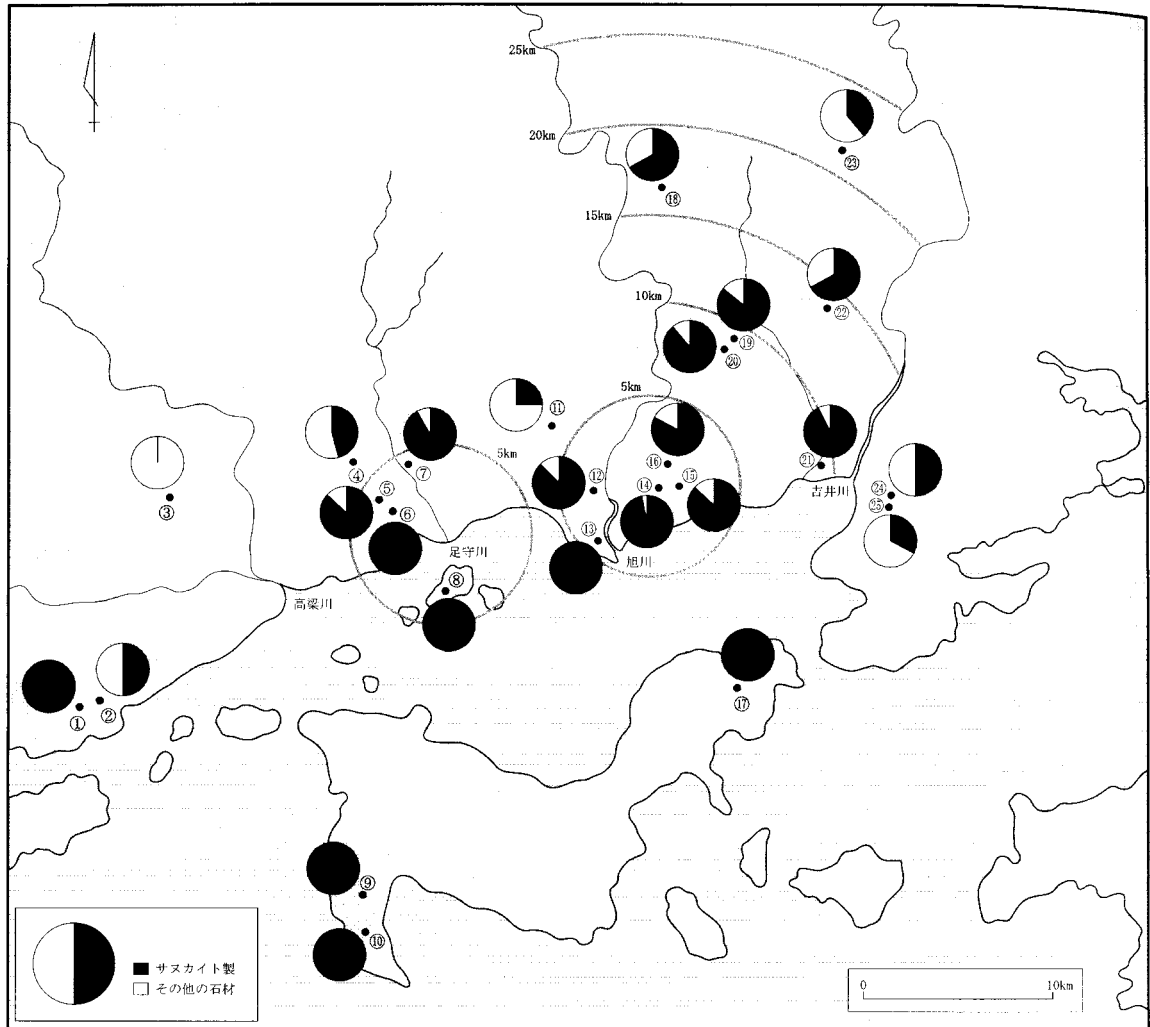


図6 各遺跡における弥生時代中期のサヌカイト製石庖丁の比率 (草原 2015)

図出典

- 図2 町田章 1985 「4 木器の生産」『弥生文化の研究 第5巻 道具と技術I』雄山閣
- 図3 寺前直人 2010 『武器と弥生社会』大阪大学出版会
- 図4 寺前直人 2011 「三 石器の生産と流通」『講座日本の考古学 5 弥生時代(上)』青木書店
岡山市教育委員会 2005 『赤田東遺跡』
岡山市教育委員会 2012 『南方(後楽館)遺跡』
岡山県教育委員会 1999 『田益田中(笹ヶ瀬川調整池)遺跡』
岡山市教育委員会 2015 『上伊福(済生会)遺跡1』
- 図5 岡山市教育委員会 2012 『南方(後楽館)遺跡』
- 図6 草原孝典 2015 「石器組成からみた岡山平野の弥生集落—弥生時代前期、中期の集落遺跡の動向」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第7集 岡山市教育委員会

番号	遺跡名	サヌカイト製	上記以外
1	上竹西の坊	4	0
2	唐津北	1	1
3	大ノ奥	0	1
4	南溝手・窪木	12	14
5	前池内	7	1
6	矢部堀越	39	0
7	加茂政所	11	1
8	奥坂	5	0
9	城	7	0
10	菰池	13	0
11	田益田中(溝66・67)	6	2
12	南方(津島)	19	2
13	鹿田	3	0
14	百間川兼基	36	1
15	百間川今谷	14	2
16	赤田東	10	2
17	貝殻山	11	0
18	新庄尾上	4	2
19	用木山	156	25
20	惣園第1	73	9
21	高下	14	1
22	塩納成	4	2
23	才地	7	11
24	熊山田	2	2
25	畑中	1	2

数字は出土点数